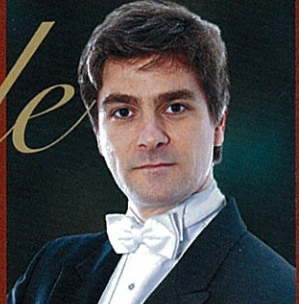


よみうり大手町ホール  
オープニングシリーズ

古楽器オーケストラの最高峰による  
バッハ宮廷音楽の粋



*La Petite Bande*  
ラ・プテイト・バンド



音楽監督:シギスヴァルト・クイケン

2014 5/28 |水| 29 |木| 各日 19:00開演  
(開場18:30)

よみうり大手町ホール



— 曲目 —

J.S. バッハ  
*Johann Sebastian Bach (1685-1750)*

管弦楽組曲 全曲  
[第1番ハ長調、第2番ロ短調、第3番ニ長調、第4番ニ長調]

*The Complete Orchestral Suites*  
No.1 in C major (BWV1066), No.2 in B minor (BWV1067)  
No.3 in D major (BWV1068), No.4 in D major (BWV1069)



ブランデンブルク協奏曲 第5番  
*Brandenburg Concerto No.5 in D major (BWV1050)*

チケット全席指定 / 8,000円(税込) ※未就学児の入場は  
お断りいたします。 主催 読売新聞社



# 優雅に、そして オルタネイティヴに

東京に、またひとつ新しいコンサートホールが生まれる。もちろん、喜ぶべきこと。だが、東京への文化のさらなる集中を憂える声も、あって不思議ではない。しかし、だからこそ、読売新聞社という大メディアが、新しく自社のコンサートホールをつくることの意義に注目したい。東京の現状が、「過多」なのではなく、「開いかけを発する場所が、まだ必要なのではないか?」と考へての決断であるはずだからだ。どのような役割が、このコンサートホールに課せられるのか。それが、満ち足りていると思われた東京が見逃していただけないものを拾い上げ、同時に東京を超えて日本の文化状況に、刺激と示唆を与えることを期待しよう。

その意味で、シギスヴァルト・クイケン率いるラ・プティット・バンドがこのコンサートホールのオープニングに登場するのは示唆的である。なぜか? 彼らこそは、クラシック音楽界における「永遠のオルタネイティヴ」だからである。異論があるかもしれない。彼らは既に40年以上の歴史を誇る、功なり遂げた老舗ピリオド楽器オーケストラであり、だからこそ開館記念演奏会の主役にふさわしいのではないかと。それは無論正しい。だが、少なくとも四半世紀くらい前まで、彼らがどれほど冷やかな視線にさらされていたか? 彼らは自力でそれを跳ね返し、古楽演奏に市民権を獲得させたのだ。そして無調整のナチュラルトランペットや肩掛けチェロの使用など、議論を呼ぶ彼らの挑戦は続いている。そしてアンサンブルの響きは、現代楽器演奏との差異を小さくしてゆくピリオド楽器グループも少なくない中、すがすがしいまでに透明で清冽だ。そう、ラ・プティット・バンドがバッハの管弦楽組曲4曲とブランデンブルク協奏曲第5番という畢生の傑作を奏でるこの演奏会は、成熟した古楽演奏をホールの素晴らしい響きと共に味わう優雅で華やいた時間であると同時に、このホールに冒険と革新の「オルタネイティヴな精神」を吹き込むセレモニーでもあるのだ。その瞬間に多くの方々立ち会い、「よみうり大手町ホール」の未来を祝福することを願ってやまない。 矢澤孝樹(音楽評論)

# ラ・プティット・バンド *La Petite Bande*

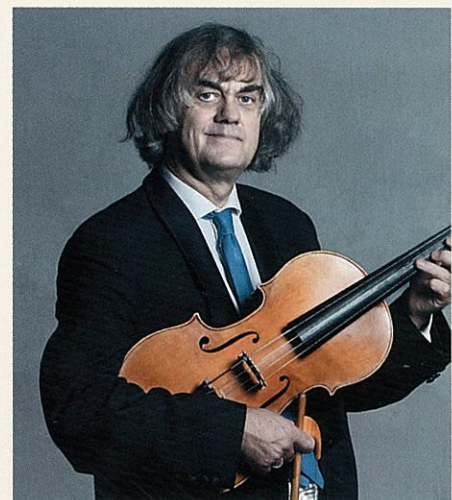
1972年、シギスヴァルト・クイケンと故グスタフ・レオンハルトにより結成されたバロック・オーケストラ。その名称と編成はルイ14世の宮廷におけるリュリの楽団にちなむ。レオンハルト指揮でリュリの「町人貴族」を録音するに際し、ドイツ・ハルモニア・ムンディが結成を提案したのがグループ発足のきっかけ。以来、S.クイケンとレオンハルトが指揮を分け合ってきたが、現在はS.クイケンが常任指揮者を務めている。古楽オーケストラのパイオニアであり、欧州各地の主要な音楽祭、コンサートホールに常に登場し、その自然で美しい演奏は古楽オーケストラの最高峰

と称され国際的に高い評価を得ている。レパートリーは、当初のフランス・バロック音楽から、今日ではコレリやヴィヴァルディなどのイタリア・バロック、バッハやヘンデルのドイツ盛期バロック、さらにハイドンやモーツァルトといったウィーン古典派にまで及ぶ。

93年に初来日、ハイドンの天地創造で日本の聴衆にその実力を披露、以後定期的に来日しファンを魅了し続けている。今回はナチュラル・トランペットのJ-F.マドゥーフ、フラウト・トラヴェルソのB.クイケンなど管楽器の名手を揃え、J.S.バッハの宮廷音楽の真髄に迫る。

# シギスヴァルト・クイケン *Sigiswald Kuijken*

1944年生まれ。64年ブリュッセルの音楽院を卒業。若い頃から兄とともに古楽に親しみ、独学で17~18世紀の演奏技術と演奏習慣を身につけた。69年、顎で楽器を支えず自由に肩に持たせかける奏法を開始、これがヴァイオリン音楽へのアプローチに決定的な影響を及ぼし、70年代初めから多くの奏者たちによって採用された。64~72年までアリアウス・アンサンブルの一員として活動し、その後も兄弟のヴィーラントとバルトルド、またグスタフ・レオンハルト、ロベール・コーネン、アンナー・ピルスマ、フランス・ブリュッヘン、ルネ・ヤコプスらと個人的な室内楽プロジェクトを立ち上げた。72年ラ・プティット・バンド結成、シギスヴァルトは恒久的なリーダーとして精力的に活動を続けている。86年クイケン弦楽四重奏団結成。98年以来、しばしば「モダン」の交響楽団を指揮し、シューマン、ブラームス、メンデルズゾーンなどのロマン派のレパートリーにも取り組んでいる。2004年シギスヴァルトの研究により復元された「ヴィオロンチェロ・ダ・スباطラ」でバッハ時代のチェロパートを演奏し注目を集める。71年から96年までハーグ音楽院、同時に93年から2009年はブリュッセルの王立音楽院で教鞭を執った。その他、ロンドンのロイヤル・カレッジ、シエナのキジアーノ音楽院、ジュネーブ音楽院、ライプ



ツィヒ音楽大学等で客員教授。2007年ルーヴェン・カトリック大学より名誉博士号授与、2009年にはフランドル政府より「生涯功労賞」が授与された。

Violin I Sigiswald Kuijken Sara Kuijken	Oboe Vinciane Baudhuin Emiliano Rodolfi Mathieu Loux
Violin II Barbara Konrad Ann Cnop	Bassoon Rainer Johannsen
Viola Marleen Thiers	Trumpets Jean-François Madeuf Jérôme Princé Graham Nicholson
Basse de violon Marian Minnen Ronan Kernoa	Timpani Koen Plaetinck
Violoncello da Spalla Sigiswald Kuijken	Harpsichord Benjamin Alard

1981年の最初の録音から31年後、結成40周年の2012年に再録音された管弦楽組曲。クイケンならではの型破りの快速テンポで、爽快で生き生きとした演奏を聴かせてくれる。作曲された当時の響きを再現するために「1パート1人」で演奏し、各声部の進行をより明白にしている。通奏低音はチェンバロの他に、いわゆる8フィートのヴィオローネと言われるチェロの前身の楽器バス・ド・ヴィオロンを使用。さらにブランデンブルク協奏曲と同様、バッハの時代の純正な響きを再現するために、ジャン＝フランソワ・マドゥーフを起用し、調整バルブがないナチュラル・トランペットを使用。また1981年の録音と同じく第2番ではバルトルド・クイケンがソロを務め、繊細で柔軟な香り高い演奏を披露している。

**J.S.バッハ：管弦楽組曲(全曲)**  
ラ・プティット・バンド (S・クイケン指揮)  
〈録音〉2012年9月29日-10月1日  
ベギンホフ教会、シント・トルイデン、ベルギー  
ACC 24779 (オープン価格)  
KKC-5361 / 日本語解説付き  
¥2,851+税 (2月発売予定)

**J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲(全曲)**  
ラ・プティット・バンド (S・クイケン指揮)  
〈録音〉2009年10月19-23日  
ギャラクシー・スタジオ (ベルギー)  
ACC 24224 (2SACD Hybrid / オープン価格)  
KKC 5138 (2SACD Hybrid / 日本語解説付き)  
¥4,286+税 [2枚組]

# よみうり大手町ホール 東京都千代田区大手町 1-7-1 TEL.03-6739-5838

アクセス ▶▶ 東京メトロ・都営地下鉄「大手町」駅C3出口直結/JR「東京」駅丸の内北口より徒歩8分

24時間いつでも予約ができる!

Yomiuri Ticket

## よみチケ

<http://www.yomi-ticket.com/> (PC・携帯) PC座席選択可

- ローソンチケット 演劇・クラシック専用電話 ☎0570-000-407 (オペレーターが対応)(10:00~20:00)
- ローソンチケット Lコード予約 ☎0570-084-003 (自動応答・24時間受付)[Lコード:36407]
- チケットぴあ pia.jp/ (PC・携帯) ☎0570-02-9999 (自動応答・24時間受付)[Pコード:212-827]
- イープラス eplus.jp/ (PC・携帯)

※ 次のことをあらかじめご承知のうえ、チケットをお求めください。  
● やむを得ない事情により、出演者、曲目が変更になる場合があります。公演中止を除き、チケットのキャンセル・変更等はできません。● いかなる場合も再発行はできません。チケットがない場合はご購入いただけませんので紛失等にご注意ください。● 演奏中は入場できません。● 未就学児は入場できません。● 全席指定です。指定の座席にてご鑑賞ください。● 場内での写真撮影・録音・録音・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。● チケットの転売はトラブルの原因になりますのでお断りいたします。転売されたチケットはいかなる場合も払い戻しの対象になりません。

〈公演に関するお問い合わせ〉 読売新聞文化事業部 TEL.03-3216-8500 (平日10:00~17:00)

